

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200700
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム わかまつ園
訪問調査日	平成 20 年 8 月 4 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に つけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成20年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200700
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム わかまつ園
所在地	薩摩川内市高江町1655 (電話) 0996-23-1201

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成20年8月4日
評価確定日	平成20年9月11日

【情報提供票よ!】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 3 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
常勤	7 人
非常勤	2 人
常勤換算	8.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	12,000円(管理費)	
敷金	有()円		無	
保証金の有無 (八店一時並立 お)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	81 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関	若松記念病院 可愛クリニック 若松歯科医院
--------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川内駅より九州電力川内原子力発電所方面に車で10分位走ると、右に高江中学校左にわかまつ園が見えてくる。グループホームわかまつ園はデイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、介護保険対象外宿泊施設と併設している。周囲は山々を望む田園地帯の中にありのどかな住み易い環境である。事業所は地域貢献を積極的に行い、地域の協力者(運営推進会議メンバー、職員家族、小学校、幼稚園、近隣住民)も多く地域交流が盛んであり、入居者は住み慣れた地域の人々に支えられ安心して生活の継続ができる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度改善点は「1日を通じ必要な水分量の確保ができるように記録に残して把握する」1項目であった。これについては、早急に具体的な検討がなされ、改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は振り返りの機会としてとらえ、職員全員に評価票を配り、項目に沿って、×印で記入し、印についての考え、改善点など記入してもらい、再度ミーティングの場で話し合いを行い、2週間かけてまとめている。
重点項目	ホームの活動状況(入居者の生活、職員研修実施)報告、入居者の現況、その他の質問との形式で会議は行われている。その他の質問では参加者から、地域での講演要請、地域行事案内・参加依頼、災害時の協力支援、OJTチェック表紹介など、意見や要望、助言が活発に話し合われ、地域に開かれたサービスとして質の確保が図られている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ご家族の来訪時直接要望を伺うようにしている。その他アンケート用紙の設置、ご家族が参加する行事では家族の意見を求める場を設けたり、行政その他外部機関の苦情窓口を重要事項に明示している。出された意見や要望はミーティングで話し合い対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議メンバーや地元の方々の協力的な支援があり、職員、入居者はふさと夏祭り、小学校運動会、星空コンサート、文化祭、幼稚園のお遊戯会など地域行事に積極的に参加し、又地域介護予防教室で認知症の理解や接し方の講演を引き受けたり、純心大学生の実習の受け入れを行うなど地域との交流が図られている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初の理念に地域密着型サービスに移行して、理念の見直しを行い地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての理念が加えられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時基本理念の唱和を行い、玄関、ホールに理念を掲げ、ミーティングで日々のケアを振り返り理念の実践ができているか確認するなど理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーや地域の方々の協力的な支援があり、職員、入居者はふるさと夏まつり、小学校運動会、星空コンサート、文化祭、幼稚園のお遊戯会など地域行事に参加し、又地域介護予防教室で認知症の理解や接し方の講演を引き受けたり、純心大学の実習の受け入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価を振り返りの機会と捉え職員全員参加して一人ひとりが項目に沿って記入し、ミーティングで話し合い、改善に向けた取り組みをしている。外部評価についても、具体的な改善をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの活動状況の報告、入居者の現状報告、その他の話題を討議している。外部評価の結果報告をし意見を聞き、地域の行事案内、職員に講演の依頼、職員育成参考資料の提案などメンバーの意見、要望、助言をもらいサービスの向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホームわかまつ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行う介護保険サービス提供事業者連絡会において各事業所が抱える問題や課題などを話し合う機会があり、意見交換をしている。市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族がホーム来訪時に入居者の暮らしぶりや健康状態を話し、金銭出納帳を確認してもらったり、ホール内に掲示している日頃撮った写真を見てもらっている。多くの家族には園たより(1~2カ月に1回発行)、管理者の手紙、写真、金銭出納帳のコピー、請求書と同封し毎月報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時直接意見や要望など聞いている。アンケート用紙の設置や、家族が参加する行事の際、意見や要望を聞く時間を設けている。苦情に関しても行政その他外部機関の苦情窓口を重要事項に明示している。出された意見はミーティングで話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みの支援を受けられるよう、職員同士が働きやすいよう、人生経験を積んだ40~50代の人を採用し、職員家族にも理解、協力してもらい、職員の異動を最小限に抑える努力をしている。昨年病気によりやむなく1名の退職者があったが、顔見知りの法人内異動で補い、ダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は学びたいことを年間計画を立て、毎月15日ミーティング時定期的に実施している。外部研修にも全職員が平均的にできるだけ多く受講できるよう工夫し、出席できなかった職員は研修報告書の回覧で学習をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症を考える研修会、県のG・H協議会、地区のG・H協議会に出席し、研修や他の施設の職員と交流をし、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。管理者は個人的に他のホームも訪問している。		職員は協議会で同業者と学んでいるが、更にホーム間の見学交流を計画され、事業所外の人材の意見や経験を生かし職員育成向上に役立てていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人やご家族にホームを見学してもらい、他の入居者や職員と触れ合うことで、安心して、納得した上でサービスを開始できるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者は入居者の話をよく聞き、ホームの理念である受容、共感を大切に職員指導している。職員は入居者は人生の先輩であるという考えを共有し、介護される側、介護する側と意識なく日々の生活を支え合っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の今までの生き方、考え方、生活習慣などの情報をもとに、日々の関わりの中で職員は本人の話に耳を傾け、本人の立場に立って、思いや意向の把握に努めている。意志の疎通が難しい人はご家族からの情報を得て対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人がどういう生活を望んでいるかが中心になるよう、入居者、ご家族の思いや意向を聞き、全職員で日々の関わりの中での気づき、意見を話し合いながら、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三か月毎のモニタリングを含め介護計画の期間内に応じた見直しを実施している。入居者の状態に変化があった場合は随時、入居者・ご家族・職員・その他関係者と話し合い計画の見直しをするが、過去一年に急な変更はなかった。</p>		

鹿児島県 グループホームわかまつ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診の送迎、メンタル面でのドクター往診、リハビリ通院付添、早期退院の支援、デイの看護師さんのアドバイスを受けるなどホームでの生活が継続できるように柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人入居時の主治医を大切に、かかりつけ医にしている。かかりつけ医による適切な医療を受けられるように支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、終末ケアや長期医療が必要な状態になった場合、退去してもらうことを納得してもらい契約している。状態変化に応じ、主治医やご家族と話し合い、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員はヘルパーや看護資格者であり知識を活かし、居室へ入る際の声掛けをはじめ、入居者への尊厳に配慮した言葉かけ、羞恥心に配慮したケアを行っている。個人情報についても記録の管理、守秘義務の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一日の業務の流れの中で動いているが、入居者のその日の体調や気持ちを大切に、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		

鹿児島県 グループホームわかまつ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好きなメニューを聞き、栄養士によって一週間の献立をたて、利用者と職員と一緒に下ごしらえ、配膳、片付けをしている。食事中は昔懐かしい歌謡曲を流し、職員と一緒に語らいながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴日は決めているが、職員は毎日入浴の支援をしているため希望があれば変更にも柔軟に対応している。入浴の都度お湯の入れ替えを行い、入浴順の問題も無く、希望の湯加減で入浴でき、楽しめる入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴から、得意分野(詩吟、書道、大正琴、味噌作り、梅干し作り、カラオケなど)を活かしてもらい、みんなで共有し楽しみにつなげている。又生活の中でその人の能力に合った役割をしてもらい、張り合いのある生き方ができるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や本人の体調や気分に応じ散歩、遠足、買物、ドライブ(墓参り、友達の家へ訪問、自宅帰り)など日常外出をし、ホームの中だけで過ごすことが無いよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する人がいるが、日中玄関の鍵はかけないで自由に出入りできる。職員は車椅子から立ち上がる危険な人、徘徊する人の居場所確認表を作成し、10分毎に居場所を記録し、職員間で共有しながら安全を図っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリングクーラー設置や、年3回の消防訓練、地域協力体制など火災に向けての取り組みはなされている。災害に関しては非常食の備蓄もしてある。運営推進会議に消防署職員がメンバーで相談できる体制である。		火災については職員も心得ているが、自然災害に対しては対応の統一がなされてなく、今後消防署の力を借りて台風、水害、地震についての対策を検討して欲しい。

鹿児島県 グループホームわかまつ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養のバランス、1日の必要カロリー計算をして献立を作成し、摂取量についても記録し把握している。水分量についても飲んだ都度食堂のホワイトボードに記入し1日分の摂取量を把握して、日々の変化に注意し対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デッキスペースは長く作られリビングや居室からデッキに出るとみんなで、季節の移り変わる田園風景を楽しめる。ホールは広く天井を高くし天窓から採光を取り入れ、食堂・コの字に据えたソファ・テーブルを囲むコーナーと3区分され、その他一角には掘炬燵のある畳のスペースもあり生活の場面に応じ居心地よく過ごせる工夫がしてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には番地と名前が掲げてあり、それぞれの思い出の品、大切にしている品やテレビ、冷蔵庫など必要な電気製品を持ち込み一人で落ち着ける居場所にしてある。鍵をかける習慣のある人にも本人の意向にそって対応している。		